

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2014年5月31日（土）、6月1日（日）、2014年度日本語教育学会春季大会を創価大学で開催した。参加者は招待者・関係者を含めて998名であった。

1. 1日目は、開会式に引き続き、大会委員会企画パネルセッション、三つの会場で4件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。
2. 懇親会は、キャンパス内のニュープリンスホールで行われ、招待者・関係者を含めて136名の参加者があった。
3. 2日目には、五つの会場で39件の口頭発表、四つの会場で23件のポスター発表、二つの会場で5件のデモンストレーションが、それぞれ行われた。どの分科会も盛況であった。

◆2014年6月1日（日）、創価大学AW505教室において2014年度第1回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 今大会実施状況の中間報告について
パネルセッション会場でのマイクの不具合についての報告があった。
2. 大会委員会企画パネルセッションについて
来年度の継続に向けた検討事項を確認した。
3. 2014年度秋季大会準備の状況について
調査研究推進委員会によるセミナー、国際交流基金による“日本語パートナーズ”派遣事業の説明会について開催を承認した。また、同時開催イベントは、諸事情により「論文」をテーマとしたイベントのみの実施を決定した。
さらに、2014年度秋季大会教材紹介コーナー出展者選考・運営についての具体的な手順等を確認した。
4. 発表査読について
2014年度秋季大会の発表応募査読の、査読担当の割当配分および審査の方法について確認した。

◆2014年6月28日（土）、2014年度第2回大会委員会が開催された。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2014年度秋季大会（富山国際会議場）準備の進捗状況について
現地体制として、今大会では実行委員会を設置せず、施設スタッフ・コンベンションボランティア・学生等アルバイトの協力により、当日の運営を行うことを確認し

た。また、使用教室の手配状況、当日のタイムスケジュールを確認し、調査研究推進委員会によるセミナー、国際交流基金による“日本語パートナーズ”派遣事業の説明会のタイムテーブル上の枠を決定した。

2. 2014年度秋季大会発表者の選考について

審査の結果、口頭発表19件、ポスター発表22件、パネルセッション5件、デモンストレーション発表4件を採択した。審査後、不採択者に送付するコメント執筆担当者、コメント取りまとめ担当者、発表会場の割振り案作成担当者などを決定した。

3. 教材紹介コーナー出展者の選考について

委員会内に設置された当コーナーWGによる選考結果を報告し、承認した。

4. 2015年度以降の大会企画・運営について

2015年度春季大会会場の武蔵野大学視察について報告した。また2016年度秋季大会を四国地方のコンベンション施設で開催するという方針を決定した。

5. 大会研究発表規定の改定について

発表要旨の項目の見直しを行い、規定の改定を承認した。

6. 大会委員会企画パネルセッションについて

来年度の継続実施に向け、本卒の定義および広報方法の再考を行った。

次回の委員会予定：2014年8月2日（土）

（庵功雄）

● 学会誌委員会

2014年7月5日（土）午後1時～5時、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

158号の刊行準備進捗状況、常任理事会における学会誌委員会関連事項（平成26年度科研費の審査結果、研究論文等発表に関する倫理規程検討特別委員会）などの報告の後、以下の通り審議が行われた。

1. 159号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補の決定。
 2. 159号投稿論文（投稿総数36本（研究論文20、調査報告8、実践報告4、研究ノート4）の審査。
 3. 160号（2015年4月号）での国際研究大会報告の寄稿依頼に関する承認。
 4. 162号特集（2015年12月号）に関する検討。
- 次回委員会予定：2014年11月8日（土）

（齋藤ひろみ）

●研究集会委員会

◆ 研究集会実施報告

1. 2013年度第10回研究集会（関西地区）

日時：2014年3月8日（土）13：00-17：30

会場：園田学園女子大学

参加者：160名（会員105名，一般55名）

内容：講演，研究発表（口頭24件）

講演講師：尾上圭介氏（東京大学名誉教授）

題目：「多義を持つ文法形式をどう教えるか」

春休み期間中の開催であったが，160名の参加者を得た。前半の講演の部では，第二言語習得のための文法教育のむずかしさの根幹は「文法形式の多義性」の問題であるとして，「モ」「ラレル」「ウ（ヨウ）」の三つの文法形式を挙げ，文法形式の多義性の構造は形式ごとに異なることについての講義がなされた。また学習者に文法形式の多義性の構造を教える必要はないが，教師は典型的ないくつかのあり方についてある程度見識を深めておく必要があると結論づけた。講演レジュメは文法形式ごとに用法分類と用例，参考文献が充実しており，尾上氏の研究成果がぎゅっと詰まっていた。研究発表は，関西からだけでなく，関東，北陸，中国，九州地方，さらに韓国，台湾からの発表者が集まった。24件の発表は5会場に分かれ，文法，語彙，談話，教授法，外国人介護士への教育支援などバラエティに富んでいた。

（川上恭子）

2. 2014年度第1回研究集会（九州沖縄地区）

日時：2014年6月14日（土）13：00-17：20，

6月15日（日）10：00-16：00，

会場：鹿児島大学郡元キャンパス 共通教育棟3号館

参加者：92名（会員58名，一般34名）

内容：講演，研究発表20件（口頭10件，ポスター9件，

ラウンドテーブル1件），活動報告（ポスター1件）

講演及びワークショップ講師：中川千恵子氏（早稲田大学）講演題目：「イントネーションに焦点を置いた発音指導法—学習者も教師もできる方法を目指して—」

ワークショップ題目：「やってみよう！発音授業の実践—学習メニューとレシビを組立てる—」

今年度も1日目に講演と口頭発表を行い，2日目にワークショップとポスター発表，ラウンドテーブルを配置した。ワークショップでは，鹿児島大学の留学生4名の協力を得て，中川氏に発音指導の模擬授業を行っていただいた。2日目はより実践的な内容となり，参加者にも好評であった。1日目の夕方開催の懇親会のほかに，2日目には午前中のワークショップ終了後に，昼食交流会（昼食持参，飲み物・お茶菓子を提供）を実施し，参加者の交流を深めた。なお，ポスター発表では，今回初めて聴衆による投票を行い，閉会式で上位4位までを発表した。

（中島祥子）

3. 2014年度第2回研究集会（北陸地区）

日時：2014年6月21日（土）13：00-17：00

会場：福井大学

参加者：76名（会員26名，一般50名）

内容：講演・ワークショップ，研究発表（ポスター3件），活動報告（ポスター4件）

講演およびワークショップ講師：荒川洋平氏（東京外国語大学），講演題目「外国人への接し方と話し方—日本語教育の根っこを考えよう—」，ワークショップ題目「やさしい日本語を使ったコミュニケーションの練習と振り返り」

今回はポスター発表のみの募集とした。一般の地域の日本語ボランティアの方々の参加を促すためである。活動報告として4件の応募があり，地域の日本語ボランティアの具体的な活動について情報交換する機会を提供することができた。また，研究発表3件も地域の日本語支援に関連する発表が集まり，「地域の日本語学習支援」というテーマでポスター発表を構成する結果となった。各ポスターでは，熱心な意見交換が行われた。後半の荒川洋平氏の講演とワークショップでは，「日本人が日本語で非母語話者と接するという事はどういうことなのか」というコミュニケーションの根幹に関わる問題について，わかりやすくユーモアあふれるお話をしていた。日本語教育研究者，日本語学習支援経験者だけでなく未経験者も多数参加する中，多くの参加者から好評を得た。地域の日本語ボランティアの参加が毎回の課題だが，今回の研究集会では発表者として多数ご参加いただいたことで，一定の成果が得られた。

（桑原陽子）

4. 2014年度第3回研究集会（中部地区）

日時：2014年7月5日（土）10：00-16：40

会場：愛知大学名古屋キャンパス講義棟

参加者：172名（会員73名，一般75名，不明24名）

内容：講演，研究発表・実践報告（口頭16件，ポスター2件），活動報告（口頭件，ポスター6件），情報共有スペース（2件）

講演講師：細川英雄氏（早稲田大学名誉教授／言語文化教育研究所ハケ岳アカデミア代表）講演題目：「今，なぜ活動型日本語教育なのか—ことばの教育の課題と展望—」

昨年度まで口頭発表形式による研究発表のみの募集であったが，集会の活性化を図る目的で，今年度から研究発表に加え実践報告と活動報告を，そして形式もポスター発表を新たに加え募集した。また，参加者相互の情報交流を目的とした情報交流スペースも開設した。その結果，発表件数は昨年の13件から25件へ，参加人数も106名から172名へと大幅に増加した。

情報交流スペースは2件の申請があり，口頭発表開始前の短い時間であったが参加者との意見や情報の交換が行われていた。口頭発表は2会場に分かれて午前，午

後に計16件、ポスター発表は午前のみであったが会場
で計8件行われ、それぞれ活発な質疑応答が交わされて
いた。さらに、昼食時には83名が参加する恒例の交流会
が開催された。

午後には、講師として細川英雄氏を迎え、戦後日本語
教育の推移、「コミュニケーション能力育成」の課題、
そして、1990年代後半に起こった活動型日本語教育の広
がりに触れた上で、活動型日本語教育とは何か、なぜ今
活動型日本語教育なのか、そして活動型日本語教育には
これまでの言語教育を乗り越える何があるのかについ
て講演が行われた。

今年度は、新たに実践報告、活動報告、ポスター発表
などを加えたため、スケジュール配分の工夫や参加者へ
の周知が十分行えなかったという課題も残されている。
しかし、1日という短い時間の中で交流会や講演を含め
充実した研究会となった。

(衣川隆生)

5. 2014年度第4回研究会(北海道地区)

日時: 2014年7月5日(土) 9:30-17:45

会場: 北海道大学国際本部留学生センター

参加者: 69名(会員52名(北海道日本語教育ネットワ
ーク会員含む)、一般17名)

内容: ワークショップ、研究発表7件(口頭のみ)

ワークショップ: 講師 小山悟氏(九州大学)、題目「習
得研究の知見を生かした教案作成—わかりやすく、楽し
く、役に立つ授業—」

今年度の研究発表は、口頭発表のみで計7件であった。
内容は、評価シートを用いた教室活動、日本語学習者の
レポート作成過程の分析、日本語母語話者の「だから」
の様相、会話の情報陳述構造の日台比較、ホームビジ
ットの実践報告、日本語とミャンマー語の敬意表現の対照、
日本詩歌の鑑賞と創作の実践報告で、多岐にわたってい
た。日本各地はもちろん海外からの参加もあり、会場は
大いに賑わっていた。昼休みを挟んで研究発表があり、
その後、講師の小山悟氏によるワークショップが行われ
た。前半の講義では、これまでの積み上げ式教科書の問
題点を示した上で、初級授業のあり方を見直すことへの
重要性について問われた。引き続き後半のワークショッ
プでは、まず講師からタスクが課され、つぎにそのタス
クを元にしてみずから授業内容を組み立てる活動が行
われた。始終、和気あいあいとした雰囲気、参加者か
ら積極的にさまざまな意見が出されるなど充実した
ワークショップであった。例年通り、共催の「北海道日
本語教育ネットワーク」会員の参加が多く、今後もネッ
トワークとの協力関係を維持していくことが期待され
る。また、会の最後に、来年度の研究集会は北海道教育
大学函館校にて開催する旨の告知があった。

(鄭惠先(チョンヘソン))

◆ 今後の研究会予定

1. 第6回研究会(関西地区)
2014年9月6日(土)、大阪YMCA国際専門学校日
本語学科(土佐堀会館)
※発表応募は締め切りました。
2. 第7回研究会(四国地区)
2014年11月8日(土)、鳴門教育大学
※発表応募は締め切りました。
3. 第8回研究会(東北地区)
2014年11月15日(土)、盛岡大学
※発表応募は締め切りました。
4. 第9回研究会(中国地区)
2014年12月20日(土)、岡山大学
発表応募締切: 9月19日
5. 第10回研究会(関西地区)
2015年2月28日(土) 予定、龍谷大学
発表応募締切: 11月予定

※各地区研究会のプログラム、発表要旨、発表募集情
報等は、日本語教育学会ウェブサイトの研究会ペー
ジに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆ 会議記録

1. 全体委員会

- (1) 2014年度第1回研究会全体委員会(2014年6月1日、
創価大学(春季大会会場))

<報告事項>

- ① 新委員の紹介
- ② 各地区報告と予定
- ③ 研究発表等の研究倫理に関する特別委員会

<審議事項>

- ① 研究会運営方法について
- ② 発表応募規定について
- ③ 各地区からの審議事項
- ④ その他

2. 関東地区委員会(実践研究フォーラム実行委員会)

- (1) 2014年度第1回関東地区委員会(2014年6月14日)
- (2) 2014年度第2回関東地区委員会(2014年7月26日)

◆ 次回会議日程

1. 全体委員会

2014年度第2回研究会全体委員会(2014年10月12日、
富山国際会議場(秋季大会会場))

2. 地区代表者会議

2014年度地区代表者会議(日時未定)

3. 関東地区委員会

2014年度第3回関東地区委員会(2014年10月18日)

● 教師研修委員会

◆研修実施報告

1. JSLバンドスケール・ワークショップ「児童生徒のことばの力をどう把握し、実践をデザインするか」

講師：川上郁雄氏（早稲田大学）

開催日：2014年6月29日（日）

会場：早稲田大学早稲田キャンパス 参加者：52名

◆2014年度後半の研修予定

1. 夏季集中研修「教える・学ぶ・考える」

— “評価価値観” “会話力” をとらえ直す—

ワークショップ①「評価について考える」

講師：宇佐美洋（国立国語研究所）

ワークショップ②「課題遂行から考える会話力」

講師：長坂水晶氏（国際交流基金日本語国際センター）

開催日：2014年8月9日（土）、8月10日（日）

会場：東京大学本郷キャンパス 定員：各30名

2. 質的研究法「ライフストーリー研究入門～インタビューの相互行為の視点から～」

講師：桜井厚氏（元立教大学教授）

開催日：2014年10月25日（土）

会場：早稲田大学 定員：40名

※同テーマで11月15日（土）にアトリエ（研修参加同士の振り返りの場）を開催予定。

3. 反転授業入門（仮題）

講師：向後千春氏（早稲田大学）

開催日：2014年11月2日（日）

会場：未定 定員：40名予定

4. 教室活動のデザインⅦ「授業デザイン理論から日本語授業を再考する」（仮題）

講師：鈴木克明氏（熊本大学）

開催日：2015年3月15日（日）

会場：未定 定員：40名予定

5. 日本語教師のためのオンラインIT講座

開催日：2015年1月～3月予定 定員：10名

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合がございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2014年度第1回教師研修委員会（2014年5月17日）

(1) 2013年度研修実施報告

(2) 2014年度夏季集中研修について

(3) 2014年度の各研修企画の進捗状況

(4) 2014年度秋季大会（富山）での大会委員会企画への協力について

(5) 委員退任報告と新委員加入について

(6) 2014年度会費日程

(7) その他

◆次回会議日程

1. 2014年度第2回教師研修委員会（2014年7月26日）

（館岡洋子）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2014(平成26)年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

○郵便振込 00140-5-64631

○みずほ銀行新橋支店（普）130-880757

○現金書留

○クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)にお問い合わせください）。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々に、「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年度会費>

○普通会員 10,000円（年度額）

○賛助会員 一口50,000円（年度額）

● 住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX：03-5216-7552/E-mail：kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用：gakkaisi@nkg.or.jp